

あ ん ど う と し ひ ろ

# 安藤利博

## 議会報告

第7号  
令和5年1月

発行人: 安藤利博

〒709-0721 赤磐市桜が丘東 4-4-695

TEL・FAX 086-995-3714

携帯番号 090-7137-6605

E-mail qqjiteki5963@gmail.com



(議会中継)



(LINE)

## 明けましておめでとうございます



今年は、干支では癸卯(みずのとう)に当たります。癸は一回りして次に向かっていく、卯は茂る意味。区切りをつけ、次へと向かっていく、希望が持てる年であって欲しいものです(癸卯の音読みはキボウです(^\_^))。

早いもので、今年は市議会議員として3年目、任期の後半を迎えます。

私はこれまで、執行部からの提案に対して是々非々で対応してきました。

**(我が家の手作り門松)** また、硬直的な財政運営に対しても見直しを求めたり、経験を踏まえて斬新な提案もしてきました。これらを議会報告でも、可能な限り具体的にお伝えしてきました。

このため、一部の方から、安藤は反市長派か、という声が聞かれました。

でも、決してそのようなことはありません。国政では与野党が対立していますが、市民生活に直結する地方議会では最初からそのような色分けはあってはならないと思っています。

先日の山陽新聞(2022.12.5)に前の鳥取県知事の片山善博さんが、「選挙で選ぶべき議員とは」の答として「**自立した候補**」とされていました。政策や議案の良否を自分で判断し、それに基づいて評決する議員と書かれていました。正に私はこのような議員でありたいと思い、行動しています。

## 人数制限解除は出来ないか(総務常任委員会より)

新型コロナウイルスも3年が経ち、何が危険で許容限度はどこまでかも次第に分かってきました。

2月5日にレディオモモ開局記念事業として、桜が丘交流センターで、雷門喜助、春風亭昇吉、福田廉之介さんの公開放送が計画されています。しかし、入場者は定員の半分の120人です。

マスクを着用し黙って聞けるのが、120人は安全で250人は危険という科学的根拠を聞きたい。現在岡山市、瀬戸内市、備前市、総社市等は人数制限をしていません。エアロゾル感染に距離は関係ありません(毎日新聞2022.12.21)。

250人の感染リスクと、250人に聴いてもらうベネフィット(利益)の比較考量。

130席の空席の損失は考えようしない市長には、科学リテラシーについて書かれている「**日本人はなぜ科学より感情で動くのか**」を読んで頂きたい。委員会後に市長から「ラジオで聞いてください」と言われたのにはあきれてしまいました



# 赤磐市立通信制高校の開設を

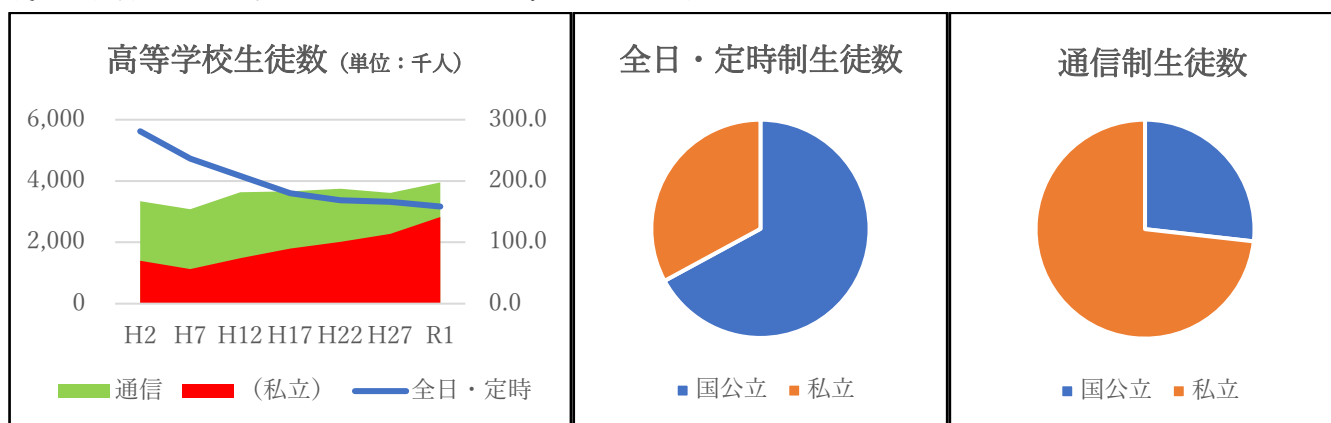
令和3年度の不登校生が中学生は16万3千人と発表されました。40人学級なら1クラスに2人が不登校の計算です。赤磐市にも普通の学習環境に馴染めない中学生（不登校、特別支援学級生）が1学年に35人程度います。

通信制高校は文科省も「生徒が自宅等で個別に自学自習する。スタートラインも目指すゴールも異なる多様な生徒に対して教育機会を提供している」と肯定的に捉えています。

最近約30年間で全日制高校生が約4割減少する中で、通信制の高校生は2割増加しています。

この結果、通信制高校生の割合は全体の3%から6%へと倍増しています。

これを公立・私立別にみると全日・定時制は公立が67%、約2/3に対して、通信制の公立は僅か27%、民間の私立が73%、約3/4です。これは急激に増えている通信制高校に対するニーズ、期待に行政が全く対応しきれていない表われです。



岡山には公立の通信制高校は岡山操山高校だけです。しかも学科は普通科があるだけです。

そこで、県教委に問い合わせた結果、通信制高校開設の可能性はあるとの感触を得て、県下で2番目の、岡山市以外では初めての通信制高校を、他市に先駆けて赤磐市に開設できないかを問いました。

例えば、山陽西小学校の空き教室を利用すれば校舎建設費用は不要で、教師も岡山県からの派遣で財政負担はない。学科も総合学科として、専門的な技術・技能を習得する。講師として市内の工場、商店、介護施設、農家等から派遣してもらい、実習先として実務体験もすれば貴重な教育機会になります。卒業後も赤磐に残り、赤磐市民として自信を持って活躍してもらえます。

市長に今すぐ結論を出さなくても結構、検討できないかと問いましたが、市長は「議員の意図がどういう所にあるのかよく分かりません」と私の質問を全く理解できないようでした。

順風満帆の人生を歩み、おそらく苦労知らずに赤磐市長になった市長には、通信制高校など眼中になく、学校に来られない子供には全く関心が無いような答弁でした。

一方、教育長からは、空き教室の利用は可能、教師も県からの派遣になる、との答弁がありました。また研究の余地はあり、他県での設置状況も含めて情報収集を進める、との答弁もありました。他県の例としては、NHKでも取り上げられた広島市立「広島みらい創生高校」を是非参考にしたいと思っています。



空き教室もある山陽西小学校

## いじめによる不登校ゼロを目指す」ではないか

世間には不登校生を悪い子供のように見る、偏見に近いものがあります。

でも、学校に行けない生徒は何も悪いことはしていない、誰にも迷惑をかけていない。ただ学校に行っていないだけ。

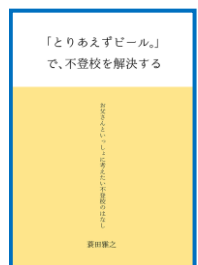
そういう学校に行けない生徒、保護者にとっては「不登校 0 を目指す」は不登校＝悪とされているような冷たい言葉です。一番大切な自己肯定感を否定する表現です。

文科省も不登校生徒への支援について「登校するという結果のみを目標にするのではなく社会的に自立するのを目指す。不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがある」と肯定的に受け容れています。

「教育委員会事務点検・評価書」では「**不登校 0 を目指す**」としているが目指すのは不登校全般ではなく、学校の責任範囲の「**いじめによる不登校 0**」ではないかと質しました。6 文字入れるだけで意味は全く異なります。

教育長からは、不登校が正当な事由に該当することもある、表記については誤解を招かないよう対応する、との答弁がありました。

不登校で悩んでおられる保護者の方は『**とりあえずビール。で不登校を解決する**』というちょっと変わった表題の本をお読みください。大変参考になります。



## 「山陽インター」を「赤磐インター」に名称変更を

山陽町の**山陽**は昭和 28 年に旧西山村、高月村、高陽村が合併したときに、**山**と**陽**を合わせた合成地名。中国地方の瀬戸内側を表す山陽とは成り立ちが違います。

50 年後も山陽インターと呼んでいたら、山陽自動車道が昭和 28 年以前に開通していたとして、今でも高陽インターと呼んでいるのと同じ状態。合併や商号変更しても旧称号で呼ばれているようなものです。みずほ銀行を富士銀行、ソニーを東京通信工業、エディオンをデオデオの様に。



NEXCO 西日本が当時の町名を基に決定したというが、勝手に無くなった町名で呼ばれ続けて違和感はないのでしょうか。50 年後の赤磐市民に言い訳できない、歴代市長の怠慢です。インター名を変更した事例は NEXCO 西日本にもあるのに、市長には必要ないと一蹴された。

## 新拠点整備に係る委託料を予備費へ（修正案可決）

補正予算に含まれている河本・岩田地区への新拠点整備に係る委託料 1200 万円を予備費に振り替える修正案が出されました。私は 2 つの理由から修正案への賛成討論を行いました。

**理由 1**：新拠点の内容に数々の疑問がある（市街化調整区域の農地を潰し新拠点を作るのは人口減少、高齢化を背景にコンパクトな街づくりを目指す法律の趣旨と違う。バスターミナルが必要なほどバスの発着はあるか。大型商業施設進出による、既存スーパーへの影響は）

**理由 2**：議会・市民の理解が得られておらず手続きが性急すぎる（全議員への説明も 1 回あっただけ。市民の理解が得られず計画が頓挫したら、委託料は死に金になる）。

修正案は 9：8 で可決され、委託料は予備費に回されました。

## フリースクール等への経済支援

登校できない児童生徒達の居場所として、グループ、NPO等が運営するフリースクール等が作られています。しかしこれらは「教育機会確保法」や、その時になされた衆参両院での「附帯決議」の趣旨からいって、本来は行政からの支援があってしかるべきです。

フリースクール等への経済支援を求める請願が出され、私は賛成討論をしました。請願は賛成多数で採択されました。

## 9月議会での退席理由

市議会だより第71号5頁の通り、一般会計補正予算の採決で私は退席しました。

この予算は住民税非課税世帯への5万円の支給ですが、支給対象の内、60歳以上が80%です。物価高で苦しいのは、高齢者世帯よりも子育て世帯の方がより厳しいと思われる、限られた財源での支給対象は子育て世帯にすべきだと考えました。そこで反対はしないまでも、賛成はしかねるため退席しました。

## 全国市議会議長会研究フォーラム in 長野



10月19日、20日の二日間にわたって上記フォーラムに参加してきました（全国から約2000名が参加）。

「デジタルが開く地方議会の未来」をテーマにしたフォーラムで、10月にタブレットが導入された赤磐市議会にとっても大変勉強になるフォーラムでした。

特に、オンライン委員会（本会議はまだ認められていない）  
オンライン視察、研修  
オンライン広聴会、報告会  
などが大変参考になりました。

## 赤磐市総合防災訓練 (R4.11.20)

吉井中学校の校庭で、南海トラフ巨大地震、豪雨災害による被害を想定した総合防災訓練が行われました。

訓練には、地元や消防関係者はもとより、警察、医師会など大勢の方が参加され、災害時の対応を確認していました。

県防災ヘリによる救助訓練や、災害救助犬による被災者の捜索も行われました。また、ドローンによる上空からの映像が地上のモニターに映し出され、被災状況の把握に役立つと期待されました。



## 交通安全ふれ愛体験会 (R4.11.28)

くらし安全課職員と、赤磐警察署員による高齢者向け交通安全のお話と、交通安全ふれ愛号と、ペダル踏み間違い防止装置の体験会がありました。ふれ愛号は何度か体験していますが、踏み間違い装置は初めてでした。

ふれ愛号の診断結果では、俊敏性は59歳で実年齢より17歳も若く、総合判定も4、同世代と比較した判定は5でした ^(^o^)/。